

平成6年度 2学期終業式 式辞

あっという間の二学期でしたが、皆さん一人ひとりが様々なことに取り組み、努力を重ねてきた姿を見ることができたこと、大変嬉しく思います。

さて、令和6年を振り返ると、私たちの心に残る多くの出来事がありました。パリ五輪、大谷選手の活躍など、感動と勇気を与えていただきましたが、特に印象深いこととしては、今年1月に発生した能登地震。多くの方々が被災し、大きな悲しみと苦しみを抱えることとなりました。この出来事は、私たちが日々当たり前のように過ごしている生活の尊さ、そして、防災への備えの重要性を改めて教えてくれたように思います。

一方で、皆さんの持つエネルギーを感じる一年でもありました。

この夏から、2年生中心に「届けよう、服のチカラプロジェクト」を展開しました。2年生生徒が、小・中学校に呼びかけ、子どもの古着を回収し、難民に送るというプロジェクトです。約3ヶ月の期間に約18,000着の子供服が集まり、今後、国連を通じて各国に送られます。

小・中学校校長先生からも、子どもに自己有用感（自分が誰かの役に立っていると感じられる感情）を育む良い経験になったと大変感謝されました。

一人の力ではできないことが、協力することで大きな力を生み出すことを実感したところです。2年生の皆さん、本当にありがとうございました。

来年度に向けて、学校としてもさらに充実した学びと環境を整えたいと考えています。新しい挑戦を恐れず、一歩ずつ前進していけるよう、皆さんとともに歩んでいきたいと思っています。

さあ、明日から冬休みです。この間、心と体をしっかり休めるとともに、自分自身を振り返り、新しい年への目標を立てる時間にして欲しいと思っています。3年生にとっては、進路実現に向けた大切な時期です。

勝負の世界でよく使われる言葉ですが、「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉があります。

この言葉は、勝利には偶然の要素もあるかもしれませんが、敗北には必ず理由があり、そこから学ぶべきものがあるということです。自分の弱点を受け入れ、しっかり補強していくことが大切です。まだまだ、やれることはたくさんあるはずです。

新年に、皆さんとまた元気にお会いできることを楽しみにしています。
よいお年をお迎えください。